

令和5年度病虫害発生予報第11号

長崎県病虫害防除所長

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病 (防除情報第13号)	やや多	やや多
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	少	少
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	やや少	やや少
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや少	並
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや多	やや多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病 (防除情報第14号)	やや多	やや多
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	やや少	並
	アザミウマ類	並	やや多
たまねぎ (早生)	べと病 (注意報第8号)	並	やや多
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	並	並
茶	カンザワハダニ	並	並

【発生予報】 本文の ( ) 内は平年値

きゅうり

1. べと病

令和6年2月16日付け**病虫害発生予察防除情報第13号**による。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(8筆)の結果、発病葉率は2.9%(3.4%)、発生圃場率は62.5%(46.5%)であった。

3. 褐斑病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(8筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.0%)。

4. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（8筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

#### 5. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（8筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率1.4%、発生圃場率23.4%）。

#### 6. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（8筆）の結果、寄生葉率は0.9%（0.8%）、発生圃場率は25.0%（16.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難となるので、黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、早期の防除に努める。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 退緑黄化病の発生が多い状態（2月前期巡回調査結果 発病株率65.8%、発生圃場率100%）が続いており、次作に持ち込まないよう防除対策を徹底する。

エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P156～159の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

オ 栽培終了後は施設の開口部を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持し本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

トマト

#### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査（9筆）の結果、発病株率は0.0%（0.4%）、発生圃場率は11.1%（17.5%）であった。

イ 本病を媒介するタバココナジラミの発生はやや多かった（コナジラミ類の項参照）。

#### 2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（9筆）の結果、果実および葉での発生は認めなかった（発病果率0.0%、発生圃場率1.1%、発病葉率0.1%、発生圃場率11.9%）。

#### 3. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査（9筆）の結果、寄生葉率は6.7%（1.4%）、発生圃場率は44.4%（40.0%）であった。一部多発圃場が見られた。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

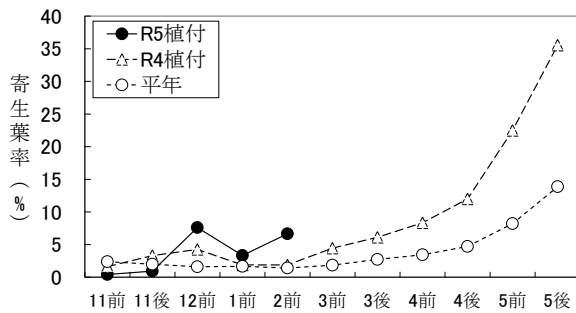


図 トマト コナジラミ類 寄生葉率

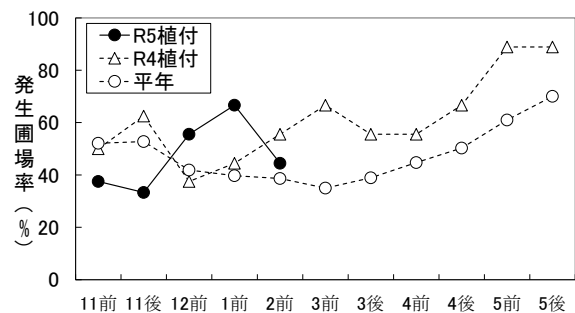


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 密度が高くなると防除が困難となるので、黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、早期の防除に努める。
- イ タバココナジラミは黄化葉巻病や黄化病の病原ウイルスを媒介するので、防除を徹底する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P184～187の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
- エ コナジラミ類は葉裏に多く寄生しているため、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。
- オ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。
- カ 施設内の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。

## いちご

### 1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（27筆）の結果、葉および果実での発生を認めなかった（発生を認めない）。

### 2. 灰色かび病

令和6年2月16日付け**病害虫発生予察防除情報第14号**による。

### 3. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は0.4%（1.0%）、発生圃場率は11.1%（13.1%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見、早期防除に努める。

イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵への影響を考慮する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P214～215の「作用機構による分類（IRAC）参照」）の薬剤の連用を避ける。

### 4. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は3.6%（8.8%）、発生圃場率は29.6%（51.9%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

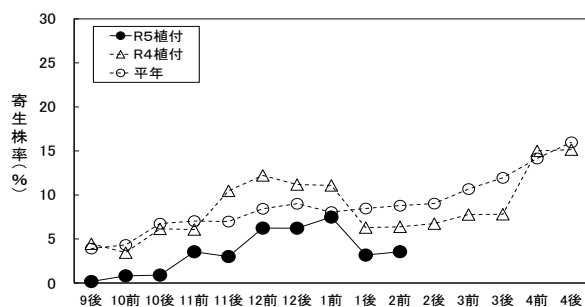


図 いちご ハダニ類 寄生株率

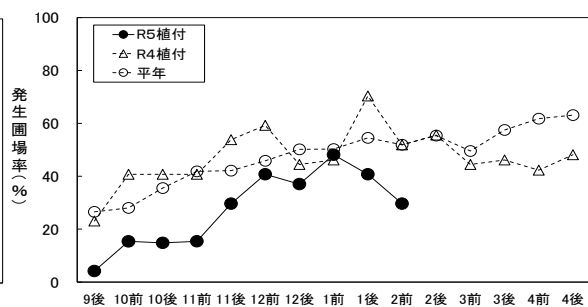


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 早期発見、早期防除に努める。また、防除効果を高めるため薬剤散布前に古葉を除去し、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵のカブリダニ類等への影響を考慮する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P214～217の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

## 5. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 2月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生花率は1.1%（過去8か年平均 0.7%）、発生圃場率は25.9%（同 30.7%）であった。
- イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 早期発見、早期防除に努める。
- イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵への影響を考慮する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P214～217の「作用機構による分類（IRAC）参照」）の薬剤の連用を避ける。

## たまねぎ（早生）

### 1. べと病

令和6年2月16日付け**病害虫発生予察注意報第8号**による。

### 2. 白色疫病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

### 3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は9.4%（11.8%）、発生圃場率は56.3%（51.7%）であった。

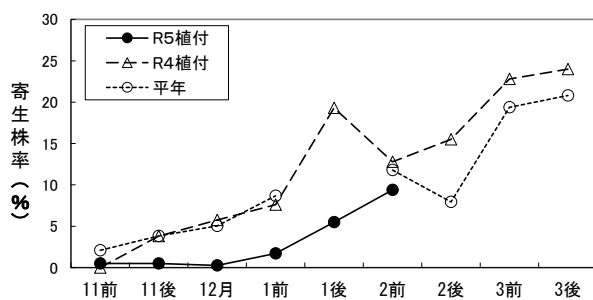


図 アザミウマ類 寄生株率の推移

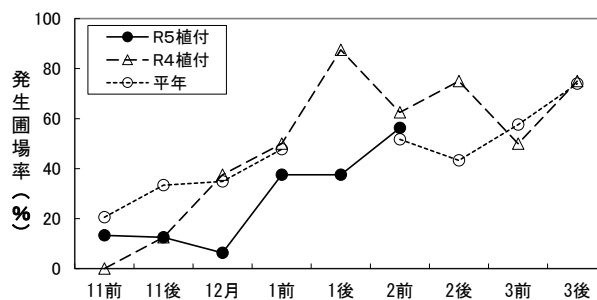


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発してからの防除は困難であり、気温が高くなると急激に発生が多くなるため、早めの防除対策に努める。
- イ 本虫の寄生により吸汁されると病害の発生を助長する恐れがあるため、発生が見られる圃場はすみやかに薬剤散布による防除を行い、散布にあたっては心葉にしっかりと丁寧に散布する。

## 茶

### 1. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.7%（0.5%）、発生圃場率は25.0%（12.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 2月下旬頃から産卵を始めるので、一番茶の被害を予防するため早春の防除を徹底する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P428～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

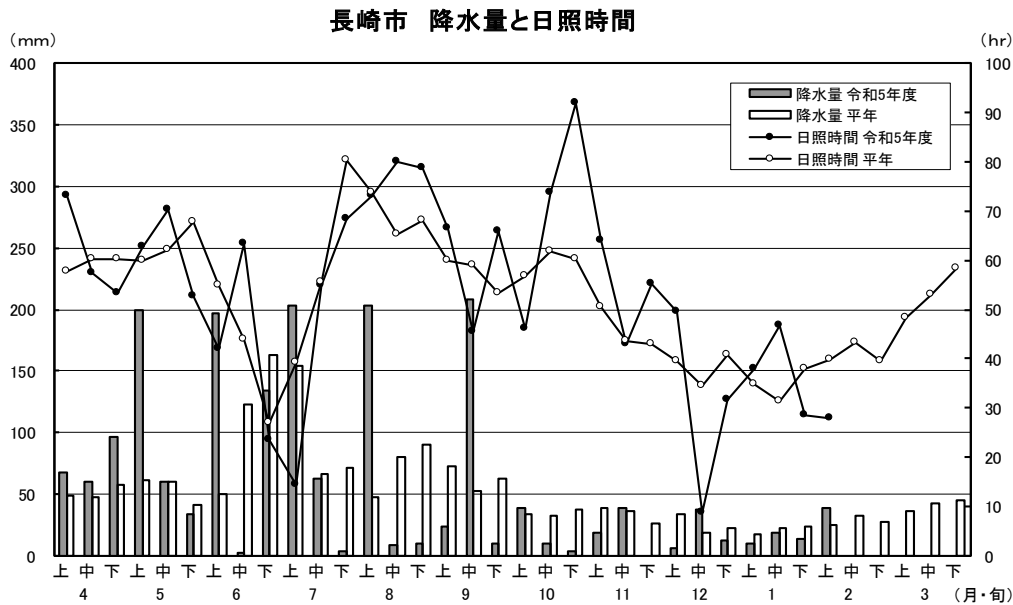
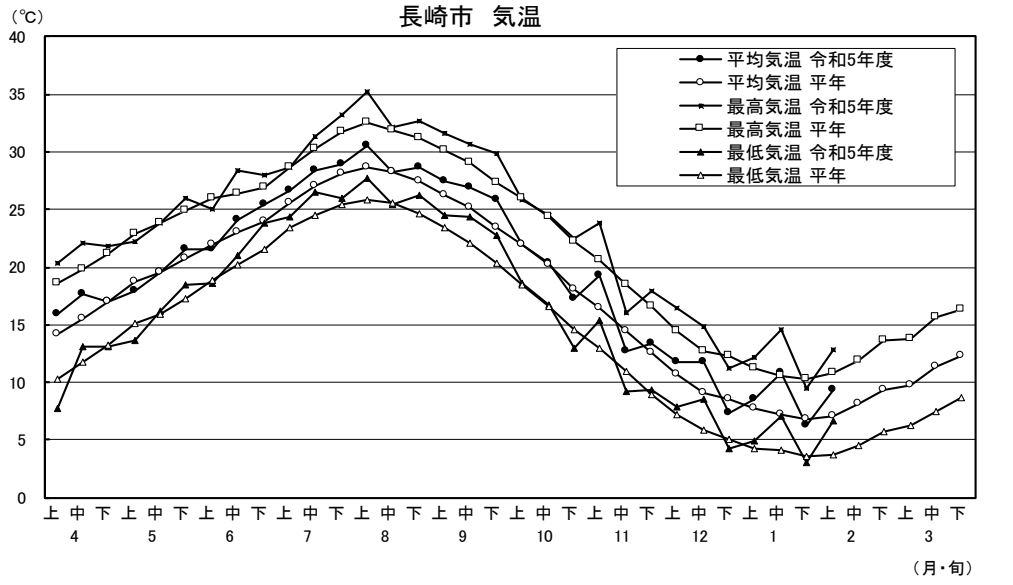
【参考】

(令和6年2月15日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	20	30	50
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和5年度の気象経過（長崎地方気象台）



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室（長崎県病害虫防除所）

T E L : 0957-26-0027

